

令和4年3月4日

那賀町教育委員会教育長 殿

木頭小・中学校長 谷 浩行

学校評価結果報告書

日頃は本校教育活動に多大のご支援ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

さて、2月に保護者に対してアンケート調査を行い、木頭学園の教育活動に対する満足度を調査いたしました。集計結果をもとに、令和3年度の学校評価をまとめましたので報告いたします。

1 調査内容

16項目（中学校は17項目）の質問に対して、次の4段階で回答をいただいた。

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D 思わない

学校評価（小・中学校保護者） 27

A・・そう思う B・・大体そう思う C・・あまりそう思わない D・・思わない

小中学校集計(保護者)											
評価内容	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無	
1 本校の子どもは、あいさつができています。	12	14	1	0	0	1	44.4%	51.9%	3.7%	0.0%	0.0%
2 本校の教職員は、生活・行動面の指導を適切にしている。	8	19	0	0	0	2	29.6%	70.4%	0.0%	0.0%	0.0%
3 学校は、子どもに道徳性を育成するため取り組んでいる。	11	16	0	0	0	3	40.7%	59.3%	0.0%	0.0%	0.0%
4 学校は、いじめやのない学校づくりに努めている。	9	18	0	0	0	4	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
5 家庭で、人権問題や学校での人権学習について話し合うことがある。	5	11	5	6	0	5	18.5%	40.7%	18.5%	22.2%	0.0%
6 学校は子どもと向き合い、子どもや保護者からの相談に丁寧に対応している。	9	18	0	0	0	6	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
7 学校は教育方針、家庭への連絡、情報提供に努めている。	9	18	0	0	0	7	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
8 本校の教職員は、学力向上のため指導方法等を工夫している。	8	17	2	0	0	8	29.6%	63.0%	7.4%	0.0%	0.0%
9 自分の子どもは、授業がよくわかり楽しいと言っている。	6	15	4	2	0	9	22.2%	55.6%	14.8%	7.4%	0.0%
10 子どもは家庭で本や新聞を読んでいる。	7	1	10	8	1	10	25.9%	3.7%	37.0%	29.6%	3.7%
11 学校は、感染症対策や防災教育等、命を大切に取る取組を積極的にやっている。	11	16	0	0	0	11	40.7%	59.3%	0.0%	0.0%	0.0%
12 子どもは将来に向けて、夢や希望をもっている。	2	12	10	3	0	12	7.4%	44.4%	37.0%	11.1%	0.0%
13 学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。	12	15	0	0	0	13	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%
14 子どもは地域の行事に参加している。	6	15	5	1	0	14	22.2%	55.6%	18.5%	3.7%	0.0%
15 学校は、「ふるさと学習」を推進し、ふるさとを愛する心を育てるように努めている。	14	12	1	0	0	15	51.9%	44.4%	3.7%	0.0%	0.0%
16 学校は、小中一貫校の特色をいかした取組を行っている。	14	12	1	0	0	16	51.9%	44.4%	3.7%	0.0%	0.0%
17 子どもは、目標をもって、部活動に取り組んでいる。	3	8	0	1	0	17	27.3%	72.7%	0.0%	0.9%	0.0%

2 考察

肯定的回答（A・Bで回答）が約85%であり、全体的に保護者の満足度は高いと言える。なかでも、設問15（「ふるさと学習」）、設問16（小中一貫教育）については「Aそう思う」が50.0%に達していて、小中一貫校として5年目となる本校の教育活動や組織などがある程度整理・統合され充実してきた成果ではないかと考えられる。地域とともにある学校づくりの根幹は「ふるさと学習」の積極的な推進にある。また、小中一貫教育において、異学年交流や乗り入れ授業などの小規模小中一貫校「木頭学園」ならではの特色ある教育活動を今後一層大切にしていかなければならないと考える。

その他、肯定的回答が100%得られた設問として、設問2（生活指導）、設問3（道徳性）、設問4（いじめ）、設問6（子ども・保護者対応）、設問7（情報提供）、設問11（命を守る教育）、設問13（保護者・地域の願い）など合計7項目を挙げることができる。今後も引き続き児童生徒の道徳性の涵養や豊かな人間性の育成に日々の実践を大切にして、真摯に取り組んでいきたい。

一方、「Cあまりそう思わない」、「D思わない」の否定的回答が多かった設問は、設問5「人権問題・学習」と設問10「読書」である。設問5は40.7%、設問10は66.6%が否定的回答となっている。昨年度も同様の結果となっており、設問5に関しては人権学習の保護者との双方向の連絡を計画的に実施しなければならないと考える。設問10については学校での読書については、休み時間に読書をしている児童・生徒も多くなっているように思われるが、読書の生活化という点では今後の課題である。この件については家庭におけるメディア使用時間の問題とも関連があると思われる。メディアの使用については保健給食委員会の活動（ノーメディアデーの設定等）で取り組んでおり、今後一層、家庭との連携を密にして取り組んでいかなければならない。国語力の向上、学力の向上のためには書物や新聞を読んで、知識や語彙、教養を豊かにすることは重要である。

学習面に関する設問は、設問8（学力向上）、設問9（授業の分かりやすさ）がある。設問8の肯定的回答は92.6%と高いものの、設問9については、「Cあまりそう思わない」「D思わない」が22.2%となっている。学力向上の手立てが授業の分かりやすさに結びついていないのではないかという懸念がある。また、同じような数値を示す設問として、設問12（将来の夢）がある。児童・生徒の作文からは、将来の目標をもって、目標達成のためには、日々努力を積み重ねていくことが大切であるということに言及している児童・生徒も増えてきている。将来の目標に向けて、しっかりと学び、自己を高めていこうとする意欲あふれる児童・生徒が増えてきたことは非常に好ましいことである。

なお、設問17（部活動）は中学校の保護者のみに回答をいただいた設問である。

3 総括

徳島県初の小中一貫校「木頭学園」としてスタートして5年目となった。小中一貫校としての基礎的体制は整ったと考える。地域とともにある学校づくりのために、今年度からスタートしたコミュニティ・スクール（学校運営協議会）をより充実したものになりたい。さらに、「ふるさと学習」を核とした小中一貫教育を一層推進し、小規模小中一貫校の強みを生かした教育活動を発展的に展開していきたいと考える。